



ARAI Takako



ITO Hiromi

伊藤比呂美(いとうひろみ) / 1955年東京生まれ。1978年の第一詩集『草木の空』以降、『宵梅』『テリトリイ論II/1』などで1980年代の女性詩の潮流を牽引。詩集として他に『河原荒草』(高見順賞)など。1990年代からは『家族アート』『クエーニャ』ほか、詩と小説の境界を越境する新たなジャンルをつくり出し、2007年の『とげ抜き 新築鴨地蔵縁起』は、口承文芸を現代詩を通して現代に甦らせた試みとして高く評価された(萩原朔太郎賞・紫式部文学賞受賞)。近著に『父の生きる』『木霊草葉』などがある。現在は米国カリフォルニアに在住、かつて住んでいた熊本との間を往復する。熊本では熊本文学隊を結成し、様々な文学イベントを行うなど隊長として活発な活動を続けている。

# 言葉の境界をこえる

ワークショップ 言葉の境界をこえる / 詩とその翻訳をめぐって

## 2014.12.5 [金]

会場：国際日本文化研究センター(日文研) セミナー室1 (エントランス入って右手)

主催：国際日本文化研究センター

予約不要 | 入場無料

15:00-16:00

●レクチュア

「言葉の境界をこえる」

講師：伊藤比呂美(詩人)

16:15-17:45

●ラウンドテーブル

「詩とその翻訳をめぐって」

パネリスト：伊藤比呂美

新井高子(詩人、埼玉大学准教授)

菊地利奈(文学研究、滋賀大学准教授)

司会：坪井秀人(国際日本文化研究センター教授)

進行：郭 南燕(国際日本文化研究センター准教授)

お問い合わせ先：坪井秀人 [hidetot@nichibun.ac.jp](mailto:hidetot@nichibun.ac.jp)

